

道産コンブの生産安定化に関する研究(重点研究:H25-28)

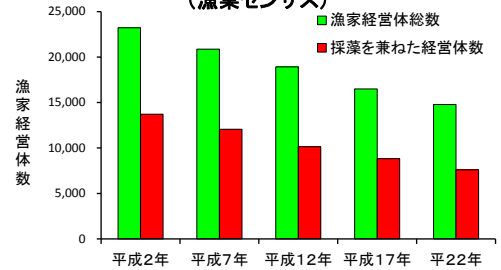
共同研究機関：釧路水産試験場調査研究部、中央水産試験場、(独)水産総合研究センター 北海道区水産研究所 工業試験場、北方建築総合研究所、株式会社MOHKAS、昆布森漁業協同組合

協力機関：北海道水産物検査協会、根室振興局、釧路総合振興局、根室地区水産技術普及指導所、釧路地区水産技術普及指導所、歯舞漁業協同組合、浜中漁業協同組合、株式会社小倉屋柳本、田尻機械工業株式会社

研究の背景・目的

近年、本道の基幹漁業であるコンブ漁業は生産量の減少傾向が続いており、このまま減少が続けば、漁家経営へ多大な影響をおよぼし、漁村の存続が危惧される。コンブ生産量の減少要因として漁場の荒廃、コンブ漁業者の減少や高齢化・後継者不足等による影響が指摘され、漁場の生産性回復に向けたより効率的な雑海藻駆除手法や重労働であるコンブ乾燥工程の省力化技術の開発が強く要望されている。乾燥技術については高度乾燥システムを核とした技術開発を進め、協業化等の新しい生産体制の構築を道や関係機関と連携し早急に取り組むことにより、コンブの生産振興を図っていく。

表 道内の漁家経営体数の推移 (漁業センサス)



研究内容

1) 道東海域の雑海藻駆除技術の高度化の検討(25~28年度 釧路水試、中央水試、北水研)

雑海藻駆除の確実な成果や雑海藻駆除面積拡大を図るため、新たに適正な駆除時期や残存雑海藻量を把握する。

2) 新たな乾燥技術の開発(25~26年度 工試、釧路水試、北総研)

既存乾燥庫の建物や設備、作業工程の調査により、現状の実態を把握するとともに、加温除湿乾燥法や遠赤外線加熱乾燥法の乾燥条件(温・湿度)と乾燥速度等との関係について検討し、品質や乾燥効率から適切な乾燥方法を把握する。

3) 高度乾燥システムの開発 (25~28年度 工試、北総研、MOHKAS、昆布森漁業協同組合)

上記乾燥法の中から適切な乾燥方法を選択し、乾燥時間の制御等が可能な技術を導入した乾燥室のシステム化条件を検討するとともに、スケールアップしたシステムのコスト・性能試算や耐久性、省エネ等に配慮した乾燥施設の設計を行う。

4) 品質評価技術等の開発(25~28年度 釧路水試、北総研)

主として加工向けコンブについての品質評価技術を確立するとともに、新システムでの効率的な乾燥条件を把握する。

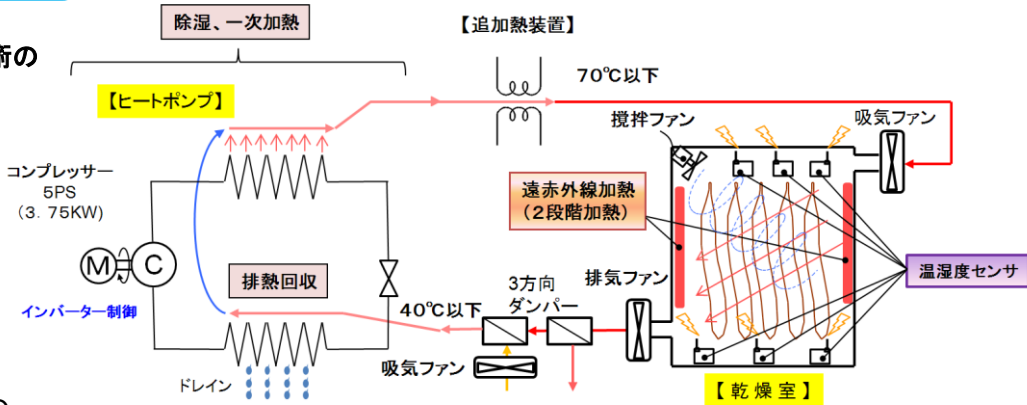


図 高度乾燥システム(省エネ型 加温除湿乾燥技術)

期待される成果

生産性の高い漁場を広範囲に造成するための効率的な雑海藻駆除基準の作成、また作業負担の軽減や品質を保持した上での低コストかつ高効率な処理につながる高度乾燥システムの開発により、コンブ生産量増大と生産体制の強化が進む。

研究成果の活用

新たな雑海藻駆除基準は全道のコンブ生産地での活用も可能であることから、道東海域はもとより全道のコンブ生産性の向上および生産量の増大・安定化に寄与する。また、本研究で開発した高度乾燥システムは、行政・業界と連携して協業化を進める中で活用し、後継者不足解消に寄与する。